



平成 21 年 5 月 22 日

各 位

会 社 名 大和自動車交通株式会社
 代表者名 取締役社長 新倉 能文
 (コード番号 9082 東証第 2 部)
 問合せ先 経 理 部 長 加藤雄二郎
 (TEL . 03 - 3564 - 4954)

(訂正・数値データ訂正あり)平成 21 年 3 月期決算短信の一部訂正について

平成 21 年 5 月 15 日に公表いたしました「平成 21 年 3 月期決算短信」の記載内容に誤りがありましたので訂正いたします。

記

1. 訂正理由

発見された入力ミスと子会社間取引の集計漏れを訂正するものであります。

2. 訂正事項及び訂正箇所 なお、訂正箇所は___を付して表示しております。

決算短信 1 ページ

1. 21 年 3 月期の連結業績 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日)

(1) 連結経営成績

(訂正前)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年 3 月期	25,486	5.8	276		735		382	
20年 3 月期	27,044	1.0	233	63.4	153	161.2	114	137.3

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
21年 3 月期	38 00		21.0	3.9	1.0
20年 3 月期	10 96		4.7	0.8	0.9

(訂正後)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年 3 月期	25,384	6.1	277		736		383	
20年 3 月期	27,044	1.0	233	63.4	153	161.2	114	137.3

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
21年 3 月期	38 09		21.1	3.9	1.1
20年 3 月期	10 96		4.7	0.8	0.9

(2) 連結財政状態

(訂正前)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年 3 月期	18,155	1,490	7.9	143 10
20年 3 月期	19,542	2,264	11.3	209 90

(訂正後)

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年 3 月期	18,154	1,490	7.9	143 01
20年 3 月期	19,542	2,264	11.3	209 90

(3) 連結キャッシュフローの状況

(訂正前)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	39	1,366	1,235	1,305
20年3月期	428	708	173	1,213

(訂正後)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	40	1,368	1,235	1,305
20年3月期	428	708	173	1,213

決算短信 3 ページ

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

(訂正前)

ハイヤー・タクシー業界は、さらなる法人需要の減少、規制緩和による競争の激化など厳しい環境のもとにありました。このような情勢のもと、当社は安全輸送への努力と利用者のニーズに対応しグループ内の主要タクシー事業所がAAランクの格付け（事業者評価制度）及びグループ内の全事業所でグリーン経営認証（環境対応度評価制度）を維持し、各般にわたり積極的な営業に努めましたが、雇用情勢の悪化や物価高騰による個人消費の低迷、得意先企業の経費削減の影響により、当連結会計年度の総売上高は25,486百万円と前年同期比5.8%の減収となりました。経費面では、タイヤ等資材価格の上昇や償却費等が増加しておりますが、燃料単価は減少傾向にあり、その他諸経費の節減に努め、経費全体では前年同期比1,048百万円（3.9%）減少しましたが、営業損失は276百万円（前年同期比510百万円減）となりました。営業外収益99百万円（前年同期比25.5%減）、営業外費用559百万円（前年同期比7.3%増）を計上し経常損失は735百万円（前年同期比582百万円減）となり、大和本社ビル（中央区銀座）売却等の特別利益1,252百万円と投資有価証券評価損等の特別損失326百万円を計上し当期純損失は382百万円（前年同期比267百万円減）となりました。

(中略)

不動産部門

不動産事業では、立地条件に恵まれた賃貸ビルを保有しており、引き続きテナントの要望にそった施設の改善に努め、中央区銀座に新たに賃貸マンションであるテラス銀座を平成20年5月に竣工しました。テラス浦安（平成20年2月）に加えテラス銀座が寄与し、空室率の改善及び賃料改定効果により不動産事業売上高は1,109百万円（前年同期比15.1%増）、営業利益は162百万円（前年同期比84百万円増）となりました。

販売部門

販売事業では、原油価格は期末に向けて下降してきたものの、依然として高水準といえ、ガソリン及びLPG市況はより一層厳しい状況が続き販売価格への転嫁が進まない中、顧客へのきめ細かいサービス提供に努めてまいりました。金属製品製造販売は、資材価格高騰があるものの社内生産効率の向上とともに、ISO9001を継続取得し製品の品質向上をさらに進めております。その結果、販売事業売上高は4,680百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益は102百万円（前年同期比14百万円増）となりました。

(訂正後)

ハイヤー・タクシー業界は、さらなる法人需要の減少、規制緩和による競争の激化など厳しい環境のもとにありました。このような情勢のもと、当社は安全輸送への努力と利用者のニーズに対応しグループ内の主要タクシー事業所がAAランクの格付け（事業者評価制度）及びグループ内の全事業所でグリーン経営認証（環境対応度評価制度）を維持し、各般にわたり積極的な営業に努めましたが、雇用情勢の悪化や物価高騰による個人消費の低迷、得意先企業の経費削減の影響により、当連結会計年度の総売上高は25,384百万円と前年同期比6.1%の減収となりました。経費面では、タイヤ等資材価格の上昇や償却費等が増加しておりますが、燃料単価は減少傾向にあり、その他諸経費の節減に努め、経費全体では前年同期比1,149百万円（4.3%）減少しましたが、営業損失は277百万円（前年同期比511百万円減）となりました。営業外収益99百万円（前年同期比25.5%減）、営業外費用559百万円（前年同期比7.3%増）を計上し経常損失は736百万円（前年同期比583百万円減）となり、大和本社ビル（中央区銀座）売却等の特別利益1,252百万円と投資有価証券評価損等の特別損失326百万円を計上し当期純損失は383百万円（前年同期比268百万円減）となりました。

(中略)

不動産部門

不動産事業では、立地条件に恵まれた賃貸ビルを保有しており、引き続きテナントの要望にそった施設の改善に努め、中央区銀座に新たに賃貸マンションであるテラス銀座を平成20年5月に竣工しました。テラス浦安(平成20年2月)に加えテラス銀座が寄与し、空室率の改善及び賃料改定効果により不動産事業売上高は1,112百万円(前年同期比15.4%増)、営業利益は162百万円(前年同期比84百万円増)となりました。

販売部門

販売事業では、原油価格は期末に向けて下降してきたものの、依然として高水準といえ、ガソリン及びLPG市況はより一層厳しい状況が続き販売価格への転嫁が進まない中、顧客へのきめ細かいサービス提供に努めてまいりました。金属製品製造販売は、資材価格高騰があるものの社内生産効率の向上とともに、ISO9001を継続取得し製品の品質向上をさらに進めております。その結果、販売事業売上高は4,575百万円(前年同期比5.9%減)、営業利益は102百万円(前年同期比14百万円増)となりました。

決算短信4ページ

(2)財政状態に関する分析

資産、負債及び純資産の状況

(訂正前)

(イ)資産

当連結会計年度末の総資産は18,155百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,387百万円の減少となりました。これは現金及び預金が47百万円増加した一方、受取手形及び売掛金の減少、繰延税金資産の取崩があり、流動資産は833百万円減少となり、また本社売却による減少、繰延税金資産の取崩により固定資産が554百万円減少したことによるものであります。

(中略)

(ハ)純資産

純資産は自己株式の取得及び当期純損失382百万円を計上した影響もあり前連結会計年度末に比べ773百万円減少の1,490百万円となりました。

(訂正後)

(イ)資産

当連結会計年度末の総資産は18,154百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,388百万円の減少となりました。これは現金及び預金が47百万円増加した一方、受取手形及び売掛金の減少、繰延税金資産の取崩があり、流動資産は833百万円減少となり、また本社売却による減少、繰延税金資産の取崩により固定資産が555百万円減少したことによるものであります。

(中略)

(ハ)純資産

純資産は自己株式の取得及び当期純損失383百万円を計上した影響もあり前連結会計年度末に比べ774百万円減少の1,490百万円となりました。

キャッシュフローの状況

(訂正前)

(イ)営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において営業活動による資金の支出は39百万円となりました。その主たる要因は売上債権の減少による収入351百万円、仕入債務の減少による支出214百万円、未払消費税等の減少による支出11百万円、法人税等の支払による支出90百万円であります。

(ロ)投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において投資活動による資金の収入は1,366百万円となっております。主たる要因は、固定資産の売却による収入2,040百万円、投資有価証券の売却による収入56百万円、固定資産の取得による支出726百万円であります。

(訂正後)

(イ)営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において営業活動による資金の支出は40百万円となりました。その主たる要因は売上債権の減少による収入351百万円、仕入債務の減少による支出214百万円、未払消費税等の減少による支出11百万円、法人税等の支払による支出90百万円であります。

(ロ)投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度において投資活動による資金の収入は1,368百万円となっております。主たる要因は、固定資産の売却による収入2,040百万円、投資有価証券の売却による収入56百万円、固定資産の取得による支出724百万円であります。

決算短信 6 ページ

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

(訂正前)

当社グループは、前連結会計年度において経常損失 153 百万円、当期純損失 114 百万円を計上し、当連結会計年度におきましても、世界的な金融危機の影響による景気悪化から得意先企業の経費削減の影響など、厳しい経営環境のもと、営業損失276 百万円、経常損失735 百万円、当期純損失382 百万円を計上しました。

(訂正後)

当社グループは、前連結会計年度において経常損失 153 百万円、当期純損失 114 百万円を計上し、当連結会計年度におきましても、世界的な金融危機の影響による景気悪化から得意先企業の経費削減の影響など、厳しい経営環境のもと、営業損失277 百万円、経常損失736 百万円、当期純損失383 百万円を計上しました。

4. 【連結財務諸表】

(1) 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	(訂正前)	(訂正後)
	当連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
(中略)		
前払金	63	64
(中略)		
その他	76	113
固定資産		
(中略)		
建物及び構築物	10,411	10,409
(中略)		
建物及び構築物(純額)	4,709	4,707
(中略)		
有形固定資産合計	13,407	13,405
(中略)		
固定資産合計	14,311	14,309
資産合計	18,155	18,154
負債の部		
流動負債		
(中略)		
流動負債合計	8,699	8,698
純資産の部		
株主資本		
(中略)		
利益剰余金	1,174	1,173
(中略)		
株主資本合計	1,438	1,437
(中略)		
負債純資産合計	18,155	18,154

(2) 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	(訂正前)	(訂正後)
	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
売上高	25,486	25,384
売上原価	23,992	23,890
(中略)		
営業利益	△276	△277
(中略)		
営業外収益		
(中略)		
還付金	2	-
車検費用(訂正前)	21	
受取車検費用(訂正後)		21
(中略)		
経常損失(△)	△735	△736
(中略)		
税金等調整前当期純利益	190	189
(中略)		
当期純損失(△)	△382	△383

決算短信 14-15ページ

(3) 【連結株主資本等変動計算書】

	(単位：百万円)	
	(訂正前)	(訂正後)
	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)
株主資本		
(中略)		
利益剰余金		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
当期純損失 (△)	<u>△382</u>	<u>△383</u>
自己株式の処分	<u>＝</u>	<u>△0</u>
当期変動額合計	<u>△443</u>	<u>△444</u>
当期末残高	<u>1,174</u>	<u>1,173</u>
(中略)		
自己株式		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
自己株式の処分	<u>＝</u>	<u>0</u>
(中略)		
株主資本合計		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
当期純損失 (△)	<u>△382</u>	<u>△383</u>
(中略)		
自己株式の処分	<u>＝</u>	<u>0</u>
(中略)		
当期変動額合計	<u>△694</u>	<u>△695</u>
当期末残高	<u>1,438</u>	<u>1,437</u>
(中略)		
純資産合計		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
当期純損失 (△)	<u>△382</u>	<u>△383</u>
(中略)		
自己株式の処分	<u>＝</u>	<u>0</u>
(中略)		
当期変動額合計	<u>△773</u>	<u>△774</u>

決算短信 16-17ページ

(4) 【連結キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：百万円)	
	(訂正前)	(訂正後)
	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	<u>190</u>	<u>189</u>
(中略)		
リース投資資産の増減額	<u>△3</u>	<u>－</u>
前受金の増減額	<u>16</u>	<u>15</u>
(中略)		
その他	<u>△75</u>	<u>△79</u>
小計	<u>369</u>	<u>367</u>
(中略)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>△39</u>	<u>△40</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
(中略)		
有形固定資産の取得による支出	<u>△726</u>	<u>△724</u>
(中略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>1,366</u>	<u>1,368</u>

(5)【継続企業の前提に関する注記】

(訂正前)

当社グループは、前連結会計年度において経常損失 153 百万円、当期純損失 114 百万円を計上し、当連結会計年度におきましても、世界的な金融危機の影響による景気悪化から得意先企業の経費削減の影響など、厳しい経営環境のもと、営業損失276 百万円、経常損失735 百万円、当期純損失382 百万円を計上しました。

(訂正後)

当社グループは、前連結会計年度において経常損失 153 百万円、当期純損失 114 百万円を計上し、当連結会計年度におきましても、世界的な金融危機の影響による景気悪化から得意先企業の経費削減の影響など、厳しい経営環境のもと、営業損失277 百万円、経常損失736 百万円、当期純損失383 百万円を計上しました。

決算短信 23ページ

(7) 【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

(訂正前)	(訂正後)
当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
<p>(たな卸資産の評価基準及び評価方法)</p> <p>たな卸資産につきましては、従来、主として個別法による原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。</p> <p>この結果、従来の方法によった場合と比べて、当期純損失が15百万円増加しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は軽微であります。</p>	<p>(たな卸資産の評価基準及び評価方法)</p> <p>たな卸資産につきましては、従来、主として個別法による原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。</p> <p>この結果、従来の方法によった場合と比べて、営業損失、経常損失が2百万円増加し、税金等調整前当期純利益が15百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は軽微であります。</p>

決算短信 24ページ

【表示方法の変更】

(訂正前)	(訂正後)
当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
<p>(連結損益計算書)</p> <p>車検費用は重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記する事にいたしました。なお、前連結会計年度において営業外収益「雑益」に10百万円含めて表示しております。</p>	<p>(連結損益計算書)</p> <p>受取車検費用は重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記する事にいたしました。なお、前連結会計年度において営業外収益「雑益」に10百万円含めて表示しております。</p>

決算短信 26ページ

(8) 【連結財務諸表に関する注記事項】

(連結貸借対照表関係)

(訂正前)	(訂正後)								
当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)								
<p>※1 担保資産及び担保債務 担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <p>(中略)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">土地</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">6,526百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">9,493百万円</td> </tr> </table> <p>(中略)</p>	土地	6,526百万円	計	9,493百万円	<p>※1 担保資産及び担保債務 担保に供している資産は次のとおりであります。</p> <p>(中略)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">土地</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">6,389百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">9,356百万円</td> </tr> </table> <p>(中略)</p>	土地	6,389百万円	計	9,356百万円
土地	6,526百万円								
計	9,493百万円								
土地	6,389百万円								
計	9,356百万円								

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

(訂正前)

	旅客自動車 運送事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	販売事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	19,312	1,109	4,680	383	25,486	—	25,486
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	99	97	1,618	142	1,958	(1,958)	—
計	19,412	1,207	6,298	526	27,444	(1,958)	25,486
営業費用	19,878	1,044	6,196	580	27,699	(1,936)	25,762
営業利益 又は営業損失(△)	△465	162	102	△54	△254	△21	△276
II 資産、減価償却費及び 資本的支出							
資産	7,475	6,851	4,274	224	18,827	△671	18,155
減価償却費	220	216	129	24	590	—	590
資本的支出	267	726	127	8	1,131	—	1,131

(訂正後)

	旅客自動車 運送事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	販売事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	19,312	1,112	4,575	383	25,384	—	25,384
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	99	94	1,723	142	2,060	(2,060)	—
計	19,412	1,207	6,298	526	27,444	(2,060)	25,384
営業費用	19,878	1,044	6,196	580	27,699	(2,038)	25,661
営業利益 又は営業損失(△)	△465	162	102	△54	△254	△22	△277
II 資産、減価償却費及び 資本的支出							
資産	7,475	6,851	4,274	224	18,827	△672	18,154
減価償却費	220	216	129	24	590	—	590
資本的支出	267	726	127	8	1,131	—	1,131

(訂正前)

(訂正後)

当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
1株当たり純資産額 <u>143円10銭</u>	1株当たり純資産額 <u>143円01銭</u>
1株当たり当期純損失 <u>38円00銭</u> (中略)	1株当たり当期純損失 <u>38円09銭</u> (中略)
1. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎 連結損益計算書上の当期純損失 <u>382百万円</u> 普通株式に係る当期純損失 <u>382百万円</u> (中略)	1. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎 連結損益計算書上の当期純損失 <u>383百万円</u> 普通株式に係る当期純損失 <u>383百万円</u> (中略)
2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎 (中略) 普通株式に係る期末の 純資産額(百万円) <u>1,427百万円</u> (中略)	2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎 (中略) 普通株式に係る期末の 純資産額(百万円) <u>1,426百万円</u> (中略)

5. 【個別財務諸表】

(2) 【損益計算書】

(単位：百万円)

	(訂正前)	(訂正後)
	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)
(中略)		
営業外収益		
(中略)		
車検費用 (訂正前)	19	
受取車検費用 (訂正後)		19
(中略)		
特別損失		
(中略)		
貸倒引当金繰入額	135	129

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	(訂正前)	(訂正後)
	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)
株主資本		
(中略)		
利益剰余金		
(中略)		
繰越利益剰余金		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
自己株式の処分	=	△0
(中略)		
利益剰余金合計		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
自己株式の処分	=	0
(中略)		
株主資本合計		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
自己株式の処分	=	0
(中略)		
純資産合計		
(中略)		
当期変動額		
(中略)		
自己株式の処分	=	0

以上



平成21年3月期 決算短信

平成21年5月15日

上場取引所 東

上場会社名 大和自動車交通株式会社
 コード番号 9082 URL <http://www.daiwai.com/>
 代表者 (役職名) 取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 定時株主総会開催予定日 平成21年6月26日
 有価証券報告書提出予定日 平成21年6月26日

(氏名) 新倉 能文
 (氏名) 加藤 雄二郎
 配当支払開始予定日

TEL 03-3564-4954
 平成21年6月29日

(百万円未満切捨て)

1. 21年3月期の連結業績(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期	25,384	△6.1	△277	—	△736	—	△383	—
20年3月期	27,044	1.0	233	△63.4	△153	△161.2	△114	△137.3

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
21年3月期	△38.09	—	△21.1	△3.9	△1.1
20年3月期	△10.96	—	△4.7	△0.8	0.9

(参考) 持分法投資損益 21年3月期 △14百万円 20年3月期 6百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期	18,154	1,490	7.9	143.01
20年3月期	19,542	2,264	11.3	209.90

(参考) 自己資本 21年3月期 1,426百万円 20年3月期 2,198百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
21年3月期	△40	1,368	△1,235	1,305
20年3月期	△428	△708	173	1,213

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					配当金総額 (年間)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
20年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00	62	—	—
21年3月期	—	3.00	—	1.50	4.50	44	—	—
22年3月期 (予想)	—	1.50	—	1.50	3.00		—	

3. 22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	12,700	△3.8	△290	—	△470	—	90	—	8.95
通期	24,500	△3.8	△550	—	△910	—	1,210	—	120.32

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無

詳細は、23ページ「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」及び24ページ「表示方法の変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期 10,500,000株 20年3月期 10,500,000株
② 期末自己株式数 21年3月期 527,053株 20年3月期 24,581株
1株当たり純利益(連結)の算定の基礎となる株式数については、35ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

(参考)個別業績の概要

1. 21年3月期の個別業績(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期	14,993	△5.2	△112	—	△465	—	△230	—
20年3月期	15,816	△0.0	334	△13.2	0	△98.9	115	△44.1

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期	△22.92	—
20年3月期	10.98	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年3月期	15,555	2,702	17.3	271.02
20年3月期	16,897	3,266	19.3	311.85

(参考) 自己資本 21年3月期 2,702百万円 20年3月期 3,266百万円

2. 22年3月期の個別業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 累計期間	7,500	△2.8	△70	—	△200	—	250	—	24.86
通期	14,300	△4.5	△150	—	△400	—	1,870	—	185.94

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。